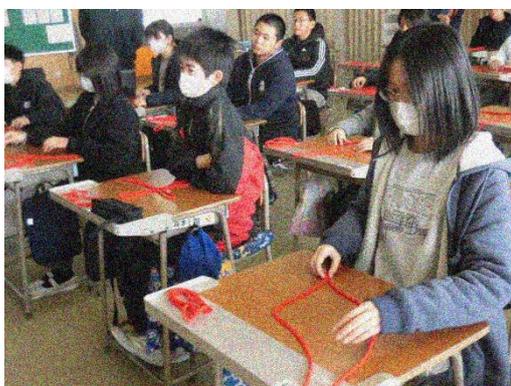


1月25日（木）小笠原流礼法

小笠原流礼法の授業も今年度最後となりました。今回は1年生が履き物の作法（靴の揃え方など）を、3年生が「鶴の箸置き」を、6年生が「菊花結び」を教えていただきました。

6年生 菊花結び

卒業式で卒業生一人ひとりの胸に飾る菊花結びを教えてくださいました。一本の赤い紐から作っていきます。「赤は、祝いや魔よけの意味があり、菊の花は延命長寿のおめでたい意味があります。」と説明を受けながら、「自分の成長と健康を祝う」という思いを一本の紐に込めて、菊花結びを作りました。



2つの菊花結びを作り、一つは卒業式用に保管し、もう一つは持ち帰ることにしました。

1年生 はきものの扱い

1年生は、まず正しい姿勢のことを復習しました。「正しい姿勢で、集中力が高まります。また、健康的になります。」と教えていただくと、すぐに背筋がピンとなりました。

次に、「履き物をそろえることで、自分の気持ちも整ってきます。」「よその家に行ったときにどのようにしたらよいか一緒に勉強していきましょう。」子どもたちは次の動作をグループごとやってみました。





家に上がる前に ①あいさつ ②前向きに靴を脱いで ③スリッパをはき ④相手の顔を見ながら（相手に背中を向けないように）向きを変えて ⑤膝をついて斜めの向きに座り ⑥自分の靴の向きを変えて ⑦靴を端に片付ける 家を出るときに①あいさつ ②くつの前に行き ②座って靴を移動 ③靴をはいたら ④相手に背中を向けないように向きを変え ⑤自分の履いていたスリッパの向きを変えて戻す ⑦あいさつ

3年生 「心を形に」

お祝いの気持ちなど「一生懸命（相手のことを思い）心を込めて折ることで、心の交流が生まれる」と言われているそうです。昔（700年前に）は、親が子どものためにお年玉包みを折って、子どもに渡していたそうです。先生が見本を見せてくださると、「わあーっ」と歓声が上がりました。

今日は赤いふちのある和紙を使って「鶴の箸置き」を作ることになりました。丁寧に教えていただき、自分の作品が出来上がり、満足そうでした。



